

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日： 令和6年3月19日

公表 令和6年4月8日

事業所名 なないろキッズついで

	チェック項目	はい(%)	どちらとも いえない(%)	いいえ(%)	工夫している点、課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	14%	0%	86%	本部との交渉あるのみ・1部屋の中でも、学習スペースと遊びのスペースを、衝立で仕切り、区別している
	2 職員の配置数は適切である	86%	0%	14%	手厚い支援を行うため、人数に応じて職員配置を工夫している。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	29%	0%	71%	設備を整備するために本部と交渉していく。1部屋の中でも、学習スペースと遊びのスペースを、衝立で仕切り、区別している
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	0%	毎月の職員ミーティングで情報共有や研修などを行い、目標に向かって職員で協同していく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	0%	保護者アンケートを1年に一回実施して業務改善に努めている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	71%	29%	0%	ホームページで公開している。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	43%	43%	14%	七穂会の評価会議に結果を公表し、業務改善につなげている。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	七穂会の研修マニュアルに沿って職員研修を行っている。
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	職員の支援記録やミーティングでの情報共有などをもとにアセスメントを行い計画を作成している。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	86%	14%	0%	使用している。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%	行っている。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%	みんなでタイムでの、子供の人数・天候等を考慮した多彩な活動
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	0%	学校からの課題や個に応じた課題に計画的に取り組ませたり、昔語りや調理実習、体操教室など事業所外でのイベントを実施
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	みんなでタイムでの、子供の人数・天候等を考慮した多彩な活動
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	勤務時間を考慮し、短時間で実施
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	71%	29%	0%	勤務時間を考慮し、短時間で実施
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	71%	29%	0%	令和6年1月より正式に実施
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%	定期的にモニタリングを行い、計画を見直している。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	0%	自立支援、生活向上のための活動、創作活動、交流活動など組み合わせている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	0%	児童発達支援管理者が参画している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	0%	各学校の年間計画、毎月の下校時刻表をもとに送迎を行っている。また、担任と定期的に面談し情報交換をしている。トラブル対応は、迅速にきめ細かく行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	86%	14%	0%	現在はいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	0%	ご利用前には、保育園などに行き本人の情報を共有し、支援に生かしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	57%	43%	0%	該当なし
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	0%	専門機関の動画配信を用いて研修をしている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	57%	43%	0%	市で主催するイベントに参加し、交流してきた。児童クラブや児童館との交流はしていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	57%	43%	0%	協議会開催通知があれば参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	支援の一つとして送迎の際に、よかったことや頑張ったことなど保護者に伝え、褒めてもらうようにしている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%	0%	0%	3か月ごとの面談の際に、お子さんのより良い対応の仕方をアドバイスしている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	0%	契約時に契約書と重要事項説明書をもとに丁寧に説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%	面談や送迎で、保護者からの悩みを相談されたときには、必要な助言を行い、職員で共有し支援に生かす。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	0%	年に一度、3事業所合同で保護者会を開催している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%	職員間での報告、連絡、相談
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	毎月、「なないろキッズついじ」と「個人お便り」を発行し、活動
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%	鍵のかかる棚に保管している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%	些細な事でも、頑張った事や、好ましい行動は送迎時に保護者に知らせている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	57%	43%	0%	地域のボランティアから昔語りをしてもらった。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	0%	災害対応マニュアルの保護者配布
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	定期的に避難訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%	虐待防止委員会を設け、研修している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	0%	放課後等デイサービス計画に記載している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	29%	71%	0%	現在、食物アレルギーのあるお子さんの利用はない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	0%	共有している。